

## みんなが元気なユニバーサル社会をめざして

関連する主な人権課題：障害のある人・高齢者

### 1 テーマの背景及び指導の観点

- (1) 21世紀の日本がめざすべき社会は、「障害者権利条約」など、これまでの国際的な取組の成果を踏まえ、障害の有無にかかわらず、誰もが相互に人格と個性を尊重し、支え合う共生社会である。この共生社会においては、障害のある人は、社会の対等な構成員として人権が尊重され、自己選択と自己決定のもとに、社会のあらゆる活動に参加・参画するとともに、社会の一員としてその責任を分担することが求められる。障害のある人の人権が尊重され、自らの能力を最大限に発揮し、自己実現できる社会の構築に向けて、すべての人の理解と協力のもと、社会全体として取り組むことが大切である。
- (2) 兵庫県における障害のある人の就労割合は、平成16(2004)年の34%から平成20(2008)年には53%へ増加するなど、行政などによる支援の成果は着実に上がっている。しかし、一方で、障害のある人自身の高齢化、支える家族の高齢化などにより、一人暮らしを余儀なくされている人や医療的ケアを要する重症心身障害者の増加など、新たな課題が生じてきている。このような状況を踏まえ、障害のある人が、必要な支援を受けながら自分の生活を自分で決めることのできる社会の実現に向け、地域社会や学校、職場などの環境整備をはじめ、周囲の人々の意識を変えるための取組が求められている。
- (3) 教育活動においては、例えば、障害のある生徒と障害のない生徒との交流及び共同学習は、生徒相互の社会性や豊かな人間性をはぐくむうえで重要な役割を担っている。また、障害に対する正しい理解と認識を深めるうえで効果的な活動でもある。各学校においては、生徒の教育的ニーズに対応した活動内容や方法を十分検討し、組織的、計画的、継続的に実施することが大切である。

### 2 展開例（ケーススタディ）

#### (1) 学習のねらい

「優先座席」設置の背景を理解し、ユニバーサル社会の実現をめざそうとする意欲や態度を身につける。

#### (2) 展開例

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 学習シートに記入し、話し合う。	○ 内部疾患のある人などについても理解させる。
2 優先座席が設置されている理由について考える。	○ 障害のある人の自立や社会参加を支援することにつながることを理解させる。
3 ユニバーサル社会の実現に向けて、何が大切かを考える。	○ 困っている人に声をかけるなど、自分たちにもできることがあることに気づかせる。
4 ふり返りを行う。	○ ユニバーサル社会の実現をめざそうとする意欲や態度を身につけさせる。

### 3 参考

#### 「障害」の表記について

- 「障害」の表記については、様々な主体がそれぞれの考えに基づき、様々な表記を用いており、法令等における「障害」の表記について、見解の一致をみなかった現時点において、新たに特定の表記に決定することは困難であると判断せざるを得ない。
- 「障害(者)」の表記は、障害のある当事者(家族を含む。)のアイデンティティと密接な関係があるので、当事者がどのような呼称や表記を望んでいるかに配慮すること。

障がい者制度改革推進会議「障害者制度改革の推進のための第二次意見(案)」[平成22(2010)年12月]

【学習シート】

- 1 優先座席は、どのような人のためにあると思いますか。

-----

- 2 あなたは、バスや電車で優先座席に座りますか。

「空いていたら座る」 理由：	「空いていても座らない」 理由：
-------------------	---------------------

- 3 あなたは、優先座席に座っているとき、優先座席が必要な人に席を譲りますか。

「いつも譲る」 理由：	「譲らないこともある」 理由：
----------------	--------------------

- 4 元気そうに見える人が優先座席に座り、優先座席が必要と思われる人が近くに立っているのを見たら、どう思いますか。

-----

- 5 優先座席が本当に必要な人に利用されるためには、どうしたらよいと思いますか。

-----